

令和5年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 図画工作科

改善の重点

題材における具体的な評価規準、指導事項等の整合性を図ること。

児童が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにすること。

表現の可能性を広げるための1人1台端末の活用を進めること。

1 設定理由

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料「小学校図画工作」の冒頭に「目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、観点ごとに評価規準を定める必要がある。評価規準とは、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものである。」とあり、児童の学習改善や教師の指導改善のためには、授業の目標に準拠した具体的な評価規準の作成が重要である。また、小学校学習指導要領解説図画工作編「第4章指導計画の作成と内容の取扱い」に「児童が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにすること。」とあり、表現や鑑賞を幅広く捉え、児童が経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるようにすることが求められていることが分かる。加えて、「コンピュータは、その特長を生かして、何度でもやり直したり、色を変えたりするなど、様々に試しながら表現の可能性を広げていくことができる。」とあり、ICT機器には、画像の提示や児童同士の意見の交流ができる他にも、児童の表現の幅を広げるために活用することが求められている。

本県の図画工作科においては、学習評価に関わる様々な整合性を図り、付けたい力を確実に身に付けさせる必要がある。そのためには、題材のめあてを常時掲示し、そのために本時のめあてを設定していることが児童に伝わりやすいような板書の工夫をすることが考えられる。また、指導に当たっては、児童の表現や作品を幅広く捉えるとともに、一人一人の児童が、自分の思いで活動を進めることができるような工夫が必要である。また、教室に多くの種類の材料を準備し、表現したいことに合わせて児童が材料を選んだり、組み合わせたりできるようにする環境を整えることが考えられる。加えて、GIGA スクール構想の観点から教科の特性を生かしつつ、学習のねらいに応じて必要性を十分に検討してICTの活用を進めることが求められる。中でも、表現の可能性の幅を広げるための活用について工夫が必要である。例えば、制作途中の作品を写真に撮り、試しにモチーフを付け加えてみたり、色を塗ってみたりして、形や色の組合せ等を確認することが考えられる。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

児童の実態を十分に踏まえて指導方法の改善、指導内容の充実を図ること。

地域の図書館、美術館等の施設や人的資源を積極的に利用すること。

1人1台端末については、学習のねらいに応じて活用の必要性を十分に検討すること。

(2) 参考とすべき資料

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 図画工作
文部科学省 Studx Style ウェブサイト 各教科等における1人1台端末の活用事例
文部科学省音楽、図画工作、美術、工芸、書道の指導におけるICTの活用について